

日本は災害大国といわれるように世界的にみても災害が多い国であり、近年では地震や豪雨などにより、毎年のように大きな被害が生じています。発災後は速やかな情報伝達が必要となる一方で、外国人被災者のための外国語対応や多言語での支援には時間がかかっているのが現実です。そこで、災害情報を音声や掲示物で適切に外国人に伝えるために考え出されたのが「やさしい日本語」です。

今回は「やさしい日本語」を研究、開発された弘前大学客員研究員の佐藤和之氏にご寄稿いただきました。

「 」の付いた「やさしい日本語」の目的と使い方 ～外国人も日本人も理解する外国語であるということ～

弘前大学客員研究員 佐藤 和之



はじめに

2020年春の日本は新型コロナウイルスの話題で持ちきりである。そんなまただ中の4月14日は熊本地震（最大震度7）から4年目の日だった。

コロナ渦中にあるいま、もし大きな地震が起きて、密集場所、密閉空間、密接場面の典型である避難所への移動や生活を余儀なくされたらどうするか考えるきっかけになった。外国人に限って言うと、2016年の熊本では外国人専用の避難対応施設を設営したが、多言語での支援が始まるのに9日かかった。この対応準備の間、弘前大学にはいろいろな機関からの問い合わせが相次いだ。外国語での対応が始まらないので、「やさしい日本語」で伝えたいがどうすればいいのかというものだった。

新型コロナウイルスが猛威をふるう中での避難所運営を考えると、外国語対応の余裕がないのは言うまでもない。本稿では災害下での「やさしい日本語」の活用について、読み手を外国語対応に関わる行政関係者と想定して論ずる。

「やさしい日本語」とやさしい日本語

やさしい日本語が使われるようになった経緯だが、初出は1995年の阪神・淡路大震災にある。自他共に認める国際都市神戸だったが、震災直後の外国語対応は間に合わず、被災した外国人は情報から遠ざけられた。震災が起きて3日目、ある支援団体から「日本語も英

語もわからず困っている外国人がたくさん集まっている。スペイン語やポルトガル語のできる人は助けに来て欲しい」との要請がネットで伝えられた。その言語的課題を解決すべく言語研究者たちの考えた外国人向け表現がやさしい日本語である。^{*1}

その後さまざまな外国人支援団体が、災害時のやさしい日本語の有効性（外国人に伝わるか）や利便性（情報発信者が表現できるか）を実務的に確認し、新潟県中越地震や東日本大震災での活用を経て普及するようになった。

やさしい日本語本来の目的は被災外国人に情報を伝えることだったが、しだいに汎用的活用（災害時に限定せず使う）がなされるようになった。その使われ方から減災以外に4種類の目的があると整理している。一つ目は、外国人にニュースをわかりやすく伝えるもの。^{*2}コミュニティーFMやNHKのNEWS WEB EASYがこれに相当する。二つ目は行政文書を外国人用にわかりやすくする取り組み。^{*3}横浜市の活用が先進例だが、一橋大学の研究者たちが中心に進める。三つ目は外国人観光客に日本語での案内を楽しんでもらおうというもので福岡県柳川市が積極的に取り組む。^{*4}これには電通が母体のやさしい日本語ツーリズム研究会が参加する。そして四つ目は医療現場での活用を目的とするもの。^{*5}順天堂大学の医師らが中心になっている。外国人の患者が理解できる表現での医療を提供しようとする。

目的の違うやさしい日本語が広まったことで、減災が目的のやさしい日本語は差別化を

図る必要が生じた。減災のためのやさしい日本語は災害発生時に情報を得られず困窮する外国人を安全な場所へ誘導し、外国人支援が始まるまでの命をつなぐ情報を伝えようとするからである。日本に住んで1年前後なら、漢字圏、非漢字圏の出身にかかわらず、行政からの情報を80%以上の外国人が理解する表現の基準を設定し、いちいちの検証調査から、約2,000の語を12の規則で作るとこの条件が満たされることを実証してきた。

言い換えると伝えられる情報には限りがあるということである。新たな広がりをもせるやさしい日本語での情報は伝える種類が多く、複雑な表現も必要となる。そのため、2,000語と12の規則では表現しきれない場合が多い。一方で減災のためのやさしい日本語は命を守る表現であり、上記条件は緩められないことから「 」を付け、やさしい日本語と区別することにした。「 」に上述の意味を担わせたわけである。

「やさしい日本語」概説

「やさしい日本語」は災害が起きると、何が起きたかや何をなすべきかを音声で伝える。とくに津波襲来や河川決壊、土砂崩れなど、緊急性の極めて高い予測情報を外国人住民にもいち早く伝わるよう考えられた。音声で避難誘導した後は、SNSや掲示物を使って安全と安心の情報を文字で知らせる。「やさしい日本語」の情報は外国人住民に限らず、日本人の高齢者から子どもまで、また突然の災害で判断がつきにくくなっている住民のすべてが理解するのに有効な表現である。

近年の外国人観光客の多さに則して言うと、「やさしい日本語」なら、日本に住む外国人のほとんどが情報を正しく理解できるため、外国人住民には即応の通訳ボランティアになってもらい、日本語を理解できない外国人観光客やまだ日本に来て日の浅い外国人に彼らの母語で迅速な避難や行動を促してもらうことも考えた。老若男女、外国人、日本人にかかわらず、多くの命を等しく守ることを目的とする。そのときの依頼表現が「日本語が わ

かった人に お願いします。係の 人の 話が わかった人に お願いします。近くにいる外国人に 教えてください」である（文節間の空白はひと呼吸（0.5秒前後）おくことを示す^{*6}）。この言い方は東京オリンピック・パラリンピックを意識して総務省消防庁が災害発生時の避難誘導表現として定めた^{*7}。

「やさしい日本語」の2,000語は日本に住んで1年くらいの外国人なら知っている語の量で、友人と待ち合わせ（約束の時間や場所を決める）たり、欲しいものを説明して買うくらいの単純な表現を作ることができる。身近な手本でいうと小学校3年生の国語の教科書が使う文のイメージである^{*8}。だから次のような利点がある。

- 1) 行政からの信憑性の高い情報を外国人はすぐに知ることができる
- 2) 災害下を生きる情報を外国人にも日本人にも的確に伝えることができる
- 3) 正しい情報を誤訳なく知らせることができる
- 4) 速やかな多言語翻訳への元文になることができる
- 5) 外国人住民に災害下での支援者になってもらうことができる
- 6) 日本人への日本語での情報を補完することができる

「やさしい日本語」は、さまざまな日本人にも適切に伝わる。外国人のためだけではないという利点は大きい。

「やさしい日本語」で知らせた具体例

災害が起きた直後は、防災無線や消防などの広報車、コミュニティーFMなどが声で情報を伝える。外国人自らが情報を理解し、迅速に行動しなければならない。だから正しい理解を助ける読み方は災害発生時に重要である。そこで、外国人に情報が的確に伝わる「やさしい日本語」放送文の読み方スピードを決めた。放送用の原稿をひらがなで書いたとして、一文が長くても30文字以内の「やさしい日本語」文の連続を1分あたり360文字で読むことにした。そう読むとよく聞き取り、内容

も正しく理解することの検証もした。

「やさしい日本語」にはまた「文は文節で区切って伝える」という規則があり、放送文（図1）はそこで区切って読む。文節とは意味のまとまりのことで、この区切りがあると、外国人は内容をよく理解する。文節と文節の間は0.5秒前後、文と文の間は1秒以内で息継ぎするのが最善である。この読み方だと日本人もよく理解し、かつまどろっこしいと感じないスピードとポーズになっている。

また掲示物（図2）やSNS、ホームページの連絡文は、文節間に余白を空けて分かち書きにする。

「やさしい日本語」にする規則は12あると記したが、その中の5規則を紹介する。

図1 防災無線やFMラジオで知らせる「やさしい日本語」例

〇〇〇〇市です。逃げて ください。
午前〇時〇分 津波警報が 出ました。
津波警報は 逃げることの お知らせです。
海から とても 大きい 波が きます。
すぐに 高い ところへ 逃げて ください。

はじめの 津波が 来る 時間は 午前〇時〇分頃です。
津波の 高さは 〇mです。
津波は 何回も きます。
津波警報が 終わるまで 高い ところへ いて ください。

図2 避難所などに掲示する「やさしい日本語」を使ったポスター例
熱中症への注意喚起（2枚組）

熱中症 Heatstroke 열사병 Insolação
ちゅうい
注意して ください
熱中症<暑くて 具合が 悪くなること>
熱中症<暑くて 具合が 悪くなること>に
注意して ください
暑い 日は 熱中症 になりやすいです
熱中症 になると 倒れる かもしれません
熱中症 になると 急に 死ぬ ことがあります
子どもや お年寄り は 熱中症 になりやすいです
特に 注意して ください
（作った 日） 年 月 日 （作った ところ） 126-1
作成 弘前大学社会言語学研究室 監修 佐藤内科医院/藤原医院

注意 Attention 주의 Atención
すること
子どもが いる人へ
子どもが 熱中症<暑くて 具合が 悪くなること>に
ならないために 大人は 次の
1. 2. 3. 4. のことをして ください
1. 水を たくさん の 飲ませて ください
場所が 少し 入った 水を 飲ませると
とても 良いです
2. 涼しい 服を 着せて ください
3. 外で 遊ぶときは
帽子を かぶらせて ください
4. 長い 時間 外で 遊ばせないで ください
（作った 日） 年 月 日 （作った ところ） 126-3
作成 弘前大学社会言語学研究室 監修 佐藤内科医院/藤原医院

「やさしい日本語」にするための代表的規則

- (1) 難しいことばを避け、日本に住んで1年くらいの外国人が使う簡単な語を使う
- (2) 一文を短くして文の構造を簡単にする
- (3) 文は分かち書きにしてことばのまとまりを認識しやすくする
- (4) あいまいな表現を避ける
- (5) 二重否定の表現を避ける

ところで「やさしい日本語」は、日本に住む外国人を対象にする。それでは「やさしい日本語」で伝えても理解できない外国人や観光客の避難誘導をどうするか。人間には多くの人と同じに行動しようとする習性がある。この群集心理を活用した誘導を考えた。

未知の経験に遭遇して不安の大きい外国人を、迅速かつ確実に避難誘導するには、誘導者の責任ある指示が重要となる。そのためには避難経路の各所に配置される誘導者すべてが、的確な指示を明瞭に、そして落ち着いて繰り返さなければならぬ。彼らの戸惑いがない誘導は「やさしい日本語」によってこそ実現される。また「やさしい日本語」だと指示を理解できる外国人が増え、混乱なく誘導の方向へ移動するようになる。日本語を理解できない外国人は、避難する外国人や日本人の行動をまね、群衆心理により安全な場所へ移動する。さらに「やさしい日本語」を理解する外国人は、彼らの母語で説明し誘導してく

れる案内者にもなり得ると考えたのである。

すべての日本人がもっとも得意な外国語

災害時に限らず外国人には英語で情報を伝える。可能なら中国語と韓国語も加えた3外国語で案内したいというのが日本では一般的である。街中の掲示も日本語とこれら3言語の併記が多い。

熊本地震の話題に戻るが、九州各地の観光施設やJR九州は外国人観光客の誘致に力を入れて多言語化を進めていた。ところが大地震に際し逐一の状況を外国語で説明（掲示）したり、車内案内の表示や放送で知らせたりできなかった。駅構内の運行列車案内も日本語だけになった。この事情は九州に限ったことではない。2018年秋の北海道地震による千歳空港の閉鎖や道内各観光地での対応も同じだった。

日本人は普段の生活を日本語だけで賄うため、外国語を使う習慣がない。公共の外国語掲示は災害時に困惑する外国人への言語支援を想定していない。平時は「おもてなし」といって外国語を用意するのだが、非常時になると外国人支援は滞る。だから避難所に外国人住民が避難しても彼らを受け入れにくい、あるいはことばの通じない、言い替えると約束のできない住民として扱いがちで、外国人にとっては避難しにくい環境である。観光客用の「おもてなし」の外国語と被災者の命を守る外国語は分けて考えるというのが近年の考えである。セーフティネットの役割を果たすことが「やさしい日本語」で、しかも災害時の「やさしい日本語」には日本人住民も理解し支持するという特徴がある。

「やさしい日本語」にする解説書を2冊紹介して稿を閉じたい。『これさえあれば!!「やさしい日本語」作り方ガイドブック』と『これさえあれば!!「やさしい日本語」図鑑』（いずれも弘前大学社会言語学研究室）である。もともとは弘前大学のホームページで公開していたのだが、いまは弘前大学附属図書館と弘前市立図書館、青森県立図書館および国立国会図書館に所蔵されていて各地図書館との相

互利用で借り出しができる。詳細は各自治体の図書館に問い合わせる。

- *1 真田信治 (1996) 『『緊急時言語対策の研究』について』月刊『言語』25-1、大修館書店
- *2 NEWS WEB EASY・やさしい日本語で書いたニュース (NHK)
<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/> (参照2020年4月)
- *3 やさしい日本語での情報発信について (横浜市役所)
<https://www.city.yokohama.lg.jp/lang/residents/ej/daiji/kijun.html> (参照2020年4月)
- *4 やさしい日本語ツーリズム (福岡県柳川市)
<https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/kanko/shiru/omotenasi/yasashiinihongo.html> (参照2020年4月)
- *5 日本で暮らす外国人のための医療関係者向け「やさしい日本語」 (順天堂大学)
<https://www.juntendo.ac.jp/co-core/education/yasashii-nihongo.html> (参照2020年4月)
- *6 災害時の外国人に情報が的確に伝わる「やさしい日本語」での読み方スピード (弘前大学社会言語学研究室)
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp//kokugo/onseikennsyoukekkabunk.html> (参照2020年3月/閉鎖)
「やさしい日本語」読み方ポーズ報告書 (弘前大学社会言語学研究室)
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp//kokugo/pause/onseichosahokokusho.pdf> (参照2020年3月/閉鎖)
- *7 総務省消防庁「外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドラインの手引き」
<https://www.fdma.go.jp/mission/prevention/items/guideline04.pdf> (参照2020年4月)
- *8 「やさしい日本語」におけるやさしさの基準について (弘前大学社会言語学研究室)
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp//kokugo/EJyasashisa-kijyun.pdf> (参照2020年3月/閉鎖)

著者略歴

佐藤 和之 (さとう・かずゆき)

2020年4月から弘前大学客員研究員。同大学名誉教授。構成員が混在化する現代の地域社会の言語変容研究を専門とし、「やさしい日本語」研究もその一環。地域社会に迎えたさまざまな国からの住民を情報弱者にしないための減災研究に取り組む。2000年に「やさしい日本語」研究で消防庁長官賞と村尾学術奨励賞（神戸に貢献のあった研究に与えられる賞）を受賞。